

のぞみトークきんき2009

2009年7月5日(日) グランキューブ大阪

講演会は細谷亮太先生(聖路加国際病院 副院長/小児総合医療センター長)と、西田知佳子先生(聖路加国際病院 ソーシャルワーカー)のお二人をお願いいたしました。

まず西田先生に療養の支障となることの解決援助のために、ソーシャルワーカーの基本として『傾聴→話をその通りに受け取る(難しいことではある)→そのことで相手を理解する(確認しつつ)→相手を好きになる→気持ち伝わる』と考えられておられることとお話しくれました。患児と家族の味方なのだと感じられてとても心強く思いました。

細谷先生には「子どもが病気になったとき・・・」と題して講演していただき、病気の子へは①嘘をつかない(全部言う必要もない)、②わかるように、③後のことを考えて(年をとった自分を基準に考えない)ということ踏まえ、同室の子が亡くなったときに「元気に退院したよ」というのではなく、「おうちに帰ったけど、どうしてるかな」と言えばいいと例を挙げてお話しくれました。また「子どもが置かれた状況をなんとか変えようと思わなければいけない」と、優しい口調の中にも強く熱い情熱を感じました。

講演会後のトークでは、長年一緒に働いておられたお二人の「間」が感じられて、楽しく温かい雰囲気進んでいきました。参加者の皆さんにとって、充実した時間となったと思います。(M.N)

クラウンドクター活動

* デイキャンプ 2009年8月2日(日) 高槻森林観光センター

「夏休みお楽しみ企画」として、今年度はバーベキューを行いました。前回バーベキューを企画したときには雨になってしまったため、今回も天候が心配でしたが、夏らしいお天気の下、楽しい時間を過ごすことができました。

* 闘病中の子どもたちに笑顔・・・ 2009年10月20日(火) 滋賀医科大学医学部附属病院



内容は「笛師九兵衛と MIKA ハープ」によるコンサートです。ハープとケーナの二重奏、童謡、唱歌など、ハープの奏でる音色が、秋の弱い光に包まれた室内いっぱい流れました。一曲ごとにたくさんの拍手がおくられ、ちんどん屋のような楽器セットや台所用品を使ったユニークな楽器の演奏では、音に合わせて楽しそうに体で拍子をとる子どもも見られました。

ひたすら治ることを信じ、辛い治療にも懸命に向き合う子どもたち、演奏が終わり、自分の病室へ帰る後ろ姿に、どうか元気になってほしいと、胸の詰まる思いがしました。闘病中の子どもたちに笑顔を・・・それは何よりも私たちボランティアの心の灯りでもありました。

森山良子コンサート楽屋訪問

2009年11月16日(月) NHK 大阪ホール

今回患児である小学生2名と高校生1名が、コンサートの開演前に楽屋訪問をさせていただく機会がありました。参加者のお母様にその様子を寄稿していただきましたので、掲載させていただきます。

お花をお渡ししたとき、「おいくつですか?」「将来は何になりたいですか?」と一人一人に尋ねられた森山良子さんの声は、おっとりとして優しく、また各自の目を見つめて話されていました。周りには関係者の方がたくさんいましたが、子どもたちは良子さんの醸し出すほんわかと温かいムードに、緊張

せず普段の姿で話していました。

子どもたちには「若いから私の歌は知らないよねえ、寝ていてもいいのよ～」と話されていましたが、居眠りどころかトークが楽しく、笑いの連続で2時間があっという間だったと娘。コンサートの中で、良子さんが60歳だと知りましたが、舞台を駆け回りながら歌う曲も数曲。その姿に娘ともども本当に驚きました。コンサートの後半、「この広い野原いっぱい」でギターを奏でた若かりし頃を思い出し、「涙そうそう」「さとうきび畑」でしみじみ。楽しく心癒されたひとときでした。

こすもす 第29回 2009年11月28日(土)、第30回 2010年3月27日(土)

この度30回目という節目の「こすもす」を新しいペアレンツハウスで開くことができましたのは、とても感慨深いものでした。いつもお世話になっている神戸学院大学の宮崎清恵先生にも参加していただき、専門的な立場から会の進行を助けていただきました。

今回は、九州からはるばる参加された方、苦しい思いを抱えて何とか会場まで来ることができた方、子どもさんを亡くした後、他の兄弟との親子関係をやり直しておられる方、今まで皆さんに助けられたので今度は少しお役に立てたらと参加された方など、いろいろな思いをもって参加されました。皆さんのどうしようもない苦しみや悲しみ、想いをつないでいくと詩ができました。

『あの日から』

あの日から	世界が変わった	あの日から	風景が消えた
あの日から	季節の移ろいが無くなった		色彩が消えた
あの日から	心の底から笑えなくなった		まばゆい光が嫌いになった
あの日から	夢を見なくなった		朝、目が覚めるのが怖くなった
あの日から	人を避けるようになった		自分が嫌いになった
あの日から	胸に何かに住みついた	あの日から	すべてが変わった
いえるのは	あの日まで	あの子は確かに存在していたこと	
	永遠に終わることのない	あの日に戻りたい	



「こすもす」が30回を迎えられたということは、宮崎先生をはじめ、皆様のご協力あってのことと感謝しております。そして何にもまして、「こすもす」を必要とされている方たちの強い思いが支えとなって、今日まで来られたのだと感謝の思いでいっぱいです。これからもご協力をよろしく願いいたします。(J.Y)

世話人のつばやき 「体内時計」

数年前から下手な写真に夢中になり、今では月に一度はカメラ片手に出かけます。勝手気ままな一人旅です。最初は家内と二人だったのですが、確か奈良公園のしだれ桜の周りをうろうろしていた時、時間の経つのと家内をすっかり忘れてしまい、それ以来なぜか一人旅です。

桜の季節、紅葉の季節、その時々にお目当てのところへ朝早くから出かけて行きます。目的地の駅に着くと近くのコンビニでおにぎりを4～5個、大きいペットボトルのお茶を仕入れて歩き始めます。あっちの山、こっちの川、足の向くまま気の向くまま、時間を忘れて写真を撮りながら放浪の旅です。他人様が見れば徘徊中年かと思われるような行動です。「ああ腹へった」と感じたら2時、3時になっています。そこでおにぎりとお茶で昼食です。「腹へった」時が昼食です。その弁当のおいしいこと。おまけに帰ってからのビールはこれまた極上です。こんな一日を過ごせば、訳のわからないストレスなどは吹っ飛んでいます。一週間か10日は絶好調です。

普段は目覚まし時計や腕時計、いろんな時計に無意識にお世話になりながら毎日を過ごしています。時間がくれば食事をする。お腹がすいているかどうかは別問題です。しかし時には体内時計にまかせて「腹へった、メシ！」こんな一日を定期的に加えれば頭も身体も生き返ります。いろんな時計に合わせての食事ではなく、腹に合わせての食事です。豪華な献立は必要ありません。これが私のちよつとした健康法です。いかがですか？皆さんも試してみませんか。(徘徊中年 H.F)